

第11回 サポートホール高松デビューリサイタル

出演者インタビュー vol.1

3月4日(土) 第1部 平田 奈夏子/ピアノ



～私にとって音楽とは？～

新たな発見や驚き、喜びに
溢れ、人生に彩りを与えて
くれる“エネルギーの源”

宇多津町出身で、現在、京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程器楽専攻2回生の平田奈夏子（ひらた ななこ）さんにインタビューしました。

— 今回、「デビューリサイタル」に応募した理由をお聞かせください。

デビューリサイタルは何度も鑑賞したことがあり、いつか自分も出演してみたいと思っていた憧れの舞台でした。また、生まれ育った香川で、多くの方々に演奏を聞いていただける機会も、とても魅力的だったため応募させていただきました。

— ピアノを始めようと思ったきっかけを教えてください。

小さい頃、母がヤマハ音楽教室の体験レッスンに連れいってくれたのがきっかけです。楽しそうに楽器に向かう姿をみて習わせてみようと思ったそうです。

— 心を動かされた曲や聴いてみてほしい曲はありますか？

メキシコの作曲家マルケスのダンソン第2番という作品です。ダンソン（キューバ発祥のダンス音楽）のタイトル通り、リズムカルで陽気な音楽なのですが、ところどころ哀愁漂う美しい旋律が現れます。とてもかっこよく心躍る熱い音楽なので気分を上げたい時に聞くのがオススメです！

— コロナ禍で演奏活動が制限される中、特に大変だったことはありますか？

演奏会が中止や延期になることが多く、時間をかけて準備してきたものが無になってしまうことが残念でした。また演奏会を開催するにしても、これまでは必要無かったコロナ対策など多くのことに気を使わなければならず、演奏だけに集中できないのが大変でした。

— 最後に一言をお願いします。

デビューリサイタルに出演できることをとても楽しみにしております。これまで支えてくださった方々や応援して下さる方への感謝の思いを込めて演奏したいと思います。